

第5回池田市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和4年4月19日（火）15：00～16：00

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

中川会長、金子副会長

浅田委員、荒木委員、池上委員、大島委員、門屋委員、北川委員、喜多村委員、ゲレンチェール委員、庄田委員、多田委員、田和委員、茂籠委員、若本委員（50音順）

（内部委員）

石田委員、岡田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、小松、川本、田籠

傍聴者：0名

1. 開会

瀧澤市長による開会挨拶が行われた。

<瀧澤市長>

本日はお忙しいところ、第5回池田市総合計画審議会にご出席いただいたことに御礼申し上げます。

昨年4月5日に第1回審議会を開催し、第7次池田市総合計画の策定に関する諮問をさせていただいてから約一年が経過した。この間、全体での会議が今日を含めて5回、3部会に分かれての審議が4回ずつ、合計17回にわたってご審議いただいた。心から感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、この一年を振り返っても、新たな生活様式や働き方というものが取り入れられている。当審議会においても、度々オンラインでの開催をさせていただいた。めまぐるしく変化する社会情勢の中において、今後の10年間を見据えた計画を策定していただくということは困難を極めることだったと思う。

今回で当審議会は最終回となるが、皆様からのご意見を総括した答申書を頂戴したい。本日はよろしく願います。

2. 案件

（1）第7次総合計画（案）について

事務局より資料2についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

キャッチフレーズについては、事前に委員の皆様にご意見を聞いている。事務局からの説明のとおり、ご意見について反映できるものは反映されていると考えている。追加でご意見等があればご発言をお願いしたい。

(意見なし)

それでは、これを以て承認とさせていただきます。

(2) 答申

会長より資料3についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<中川会長>

答申についても事前に委員の皆様にご覧いただき、ご意見を頂戴した。改めて、ご意見やご異議があればご発言をお願いしたい。

(異議なし)

ご異議がないようなので、これを答申として市長に提出させていただくが、よろしいか。

(一同了承)

それでは、事務局の方で準備をお願いしたい。

(中川会長から市長に答申書を手渡し)

ただいま、私から市長に対し答申書をお渡しした。総合計画審議会としての答申を無事に終えることができ、委員の皆様方のご熱心なご審議、ご協力に感謝する。

(3) その他

<会長>

この際なので、委員の皆様からご感想等をいただきたい。

<外部委員>

皆様にご感謝申し上げます。「だったらいいな」を叶える「いけだ」ということで、池田でこういうことをしたいという人が、これを見ることでヒントを得られるような、または手助けとなるガイドブックとなるようなエッセンスがあればいいと思っている。

これから、皆様にごこういったものを作ったということを知っていただき、活用いただくことが大きな課題となるので、そういうことに注力いただきたい。また、答申にもあるように、計画を実施するための組織体制について、こういったものがあるというところ、また、こういったことを目指すということ、市民の皆様ももちろんだが、市職員の方にも見ていただいて、目標に向かって一緒に取り組める市の体制を整えていただきたい。

<外部委員>

この会議に参加して、委員の皆様の活発で熱心な議論に圧倒されている。池田市を良くしていきたい、こんなところに住みたい、他の町に住んでいる人にも池田の良さを伝えたいというような熱い気持ちを感じながら、部会等も進めていた。これから、答申にもあったように、まだまだ不透明な状態が続いていくと思われる。子育てに優しいまち、若い人が輝けるまちになっていけばいいというところで、地元の大学としてもぜひ一緒に今後も総合計画の実現に向けて歩んで参りたい。今後とも、よろしくお願ひしたい。感謝申し上げます。

<外部委員>

まず、事務局の皆様のご苦勞を間近に見てきた。部会の運営などもあった中で、大変感謝している。

個人的には、「価値を高め発信するまち」が部会のメンバーとして思い入れがある。これを策定しただけでなく、池田というまちが何回か会議に参加する中で、改めて素晴らしいまちだと感じているので、それを市民だけでなく、市外の人にも伝わるきっかけになればよい。また、伝えていくということは、まずは池田というまちを好きになる、それから一緒になって良くしていくことが重要なので、この計画はきっかけづくりになればと思う。

<外部委員>

このような会議に初めて参加して、特に市民委員の皆様の熱心さに驚いた。今回の総合計画は産官学民が揃って作ってきたものだと思っている。私にとって、池田市は子どもと孫が住んでいるまちなので、5年後、10年後にもっと良いまちになったらいいなと思って会議に参加した。「だったらいいな」を叶える「いけだ」になってほしい。感謝申し上げます。

<外部委員>

私もこのような会議に委員として参加するのは初めてで、市民として非常に勉強になった。パブコメを盛り上げられないかということで、オンラインでイベントを行い、複数の委員にも参加いただいて、10年後の池田はどうなったらいいかを話させていただいた。そこまで多くの方が参加したイベントではなかったが、自分でもそういう経験を得られて、まちづくりは身近であると感じ、いろいろな人にいろいろな考えがあることを痛感した。

総合計画という形になったので、これから市民としてどのように関わっていけるかを考えていきたい。4つの柱に関しても、自分ごととして当てはめると、子育て中の自分、これから老後を迎える自分などを想像して何をやらないといけないか思いをはせることができる。このようなことを市民の皆様と一緒に考えていける場を、市にも考えていただきながら、住民としても自発的な活動ができればと考えている。本当に感謝申し上げます。

<外部委員>

学生委員ということで、少しでも若者の意見を言っていけたらいいと意気込んでいた。まだまだ未熟だが、委員の皆様から学ぶという姿勢で、少しでもお役に立てればいいと思ってきた。学生なので、これからいろいろな学びを行っていくが、大学では学べないことを学ぶことができた。住んでいるところも大学も池田と繋がりはないが、せっかく池田と繋がりができたので、池田市に注目していきたい。この一年間に感謝申し上げる。

<外部委員>

他の委員もおっしゃったように、委員の皆様と事務局の努力があり、大変素晴らしいものができたと感じている。私もその一端を担わせていただいたことを誇りに思う。

ただ、計画を作るのが目標ではなく、作られた計画を実行していくことが大事である。その実行というのは、市役所の皆様が実行するというものでなく、そこに住んでいたたり働いていたりする関係者の方々が考え、参加していくということが最も重要である。SDGsに関連する課題は非常に複雑で、難しいものもたくさんあると思うが、行政だけで考えられるものではない。むしろ、市民の方々が参加することが大事で、それを促すのが行政の仕事だと思っているので、この計画をより具体化するためにも、市民の参加を広報等で促しながら進めていただければ、さらに素晴らしいまちになると考えている。

<外部委員>

市民委員として参加させていただいたが、普段市民として生活しているのと違って、広い視点で未来のことについて考えることができた。この中では、市民委員という立場もあって比較的この計画を実施していくにあたって、やっていけることは多いと思っている。また、市民にも発信していくこともできると考えている。私自身も大分長くここで長く暮らすことになると思うので、総合計画を見守りつつ関わっていきたい。この一年間に感謝申し上げます。

<外部委員>

本当に多様な前向きな意見がたくさん出た中で、それを取りまとめられて、この一冊に文書化された努力を見ると、すさまじい一年だったと事務局の皆様には敬意を表する。

できあがったここからがスタートで、まさに答申にも書かれている、私も市民であり、多様な主体の一つなので、プレイヤーとして、このまちを総合計画が描いたように作り上げていけるかが勝負だと肝に銘じている。

まずはどこの行政でも計画自体の認知度はそんなに高いものではないと思う一方で、キャッチフレーズについて議論を重ねて、耳に残るようなインパクトの残るものになったので、キャッチフレーズをきっかけに皆様に知っていただくと共に、プレイヤーがより多くの市民を巻き込んで、一緒に活動を展開していけるか、今回ご一緒した委員の皆様と手を組めるのなら一緒に進めていきたい。これを一つのきっかけとして一緒に活動していきたいと思っている。感謝申し上げます。

<外部委員>

この度は池田の未来を決する大事な協議の場に参加させていただき、感謝申し上げます。私自身もこのような会議に参加することは初めてで、最初は手探りの状態であったが、他の皆様の熱意あるご意見などを聞き、改めて考えていく中で、生まれ育った池田を見つめ直す機会をいただきました。今回のキャッチフレーズが「だったらいいな」を叶える いけだ」ということで、誰かが叶えてくれるという意味ではなく、叶える主体は市民一人一人であり、関係団体一つ一つなど、全体が主体者であるということなので、私も市民の一人として、関係団体の一員として、実体の伴った計画になるよう尽力していきたい。

<外部委員>

社会福祉協議会の一員として、また、市民として、池田の総合計画に関わることができて幸せに思っている。私自身も長い間、社会福祉協議会で池田市に関わってきて、良いこともあれば不満に思うこともあり、無い物ねだりばかりしていたが、今あるものを活かすことができるのではないかと、もっと前向きに考えることが大事ではないかと改めて気づかせていただいた。ここに関わらせていただいて、本当に良かったと思っている。私もいろんなことに意見を述べさせていただいて、まとめることを考えずに想いを言わせていただいたが、素晴らしい冊子に仕上げさせていただいた事務局に感謝を申し上げたい。

私の仕事は「いきいきと暮らし続けられるまち」に関わることだが、今まで総合計画というと雲の上のことで、どのように作られて、どういうものか分からないまま仕事をしてきたが、これにぶら下がる計画策定もやらせていただいたが、総合計画がこういう形で全て総括していることを理解できたことで、ぶら下がっている計画についても安心して発言したり提案したりできると感じた。

この後、地域ビジョンを小学校区ごとに作られることを聞いた。私たちの福祉の計画も小学校区ごとに作るようになっていて、今までは別々に作っていたが、今回計画に関わることができて、自信を持って一緒にやろうと提案することができた。行政からもまちづくりに福祉が入っていることは間違いないので、今年度は一緒にやろうということで、小学校区ごとのワークショップを実現することになった。これもこの計画に関わった成果の一つである。行政と一緒に計画の実行に移る段階に入ったと実感している。感謝申し上げます。

<外部委員>

この一年間、事務局と会長のご尽力に感謝申し上げます。

大学院の博士前期課程から計画は何なのかを考えており、都市計画や建築を研究していると、バブル崩壊後は計画を作っても、次にはお金が無くなって、何もできない状況になる。我々のスピードと世の中のトレンドや経済の動きはスピード感が違う。すぐに計画が破綻するということで、計画とは何なのか、実際に実行できるのかということを考えながら、30年分ぐらいの計画を考えるということをしている。

総合計画は10年ということで、上位計画となっている。お金があるところだったら、短期でもの凄い資本を投下して、計画が成り立つ間に回収しようとするが、それは世界中でもごく一部しかできない。何が大切になるかということ、答申の3項目にも挙げられているが、どう実施するかである。今はコロナもあり戦争もあり、策定する条件が変わってき

ているが、このような困難があっても、ここで考えてきた主旨は各種政策に取り込んで、実施されるという設計図を作り込んで、どうやっていくかに注力していただきたい。

産官学民で作り上げられたという発言もあったが、私どもの学校も「地域に生き、世界に伸びる」をモットーとしている。総長が誰になろうとも、そこだけは変えていない。地域に生きる者として、池田市の発展に貢献できればと考えている。今後とも、よろしくお願いしたい。

<外部委員>

総合計画審議会に市民委員として参加させていただいた。思ったことを率直に発言させていただいて、事務局の皆様にはご迷惑をお掛けした。

非常に思い入れのあるものができたと考えている。せっかく良い計画ができたので、多くの市民の方に知ってもらいたい。また、この計画を実施する一主体が市民だと強く感じているので、仲間を集めて何ができるのか、考えるだけでなく行動していけるようにしていきたい。感謝申し上げる。

<岡田委員>

この一年間に感謝申し上げます。いろいろな意見があり、ありがたく思っている。

これからは私たちだけでなく、皆様にも担っていただきたいが、総合計画がどれだけの人に知ってもらえるかが重要である。市としてもいろんな場面でPRに取り組み、認識していただけるような場面を作っていきたい。

この計画案は6月議会に上程させていただいて、議会の承認をいただく場面において、皆様からいただいたご意見をどれだけ説明できるかという不安もあるが、いろんな意見をいただいたことを思い出しながら、議員の皆様にご丁寧な説明ができるように、頑張っていきたい。

ここに集まっていたいただいた皆様は様々なご意見を持っていると思われるので、今後とも市政発展のために、また、違った場面でもご協力いただけるようお願い申し上げたい。重ねて感謝申し上げます。

<石田委員>

中川会長をはじめ、委員の皆様には長期間この第7次総合計画の策定にあたってご審議いただき、感謝申し上げます。

議会に承認いただいて正式な計画となるが、今日がゴールではなく、新たなスタートとなる。どう実施していくか、どう動いていくかが我々に与えられた使命である。特に答申の付帯意見にもあったが、(2)について、職員の周知を徹底させていただき、進行管理、組織体制づくりについて検討が必要と感じている。

今回の計画については、若干今までとは違った体裁ということで、細かい意見を記載できていないところもあるが、多くのいただいた意見を大事にしながら、今後、市民の皆様のご期待に沿えるように努めていきたい。この一年間に心から感謝申し上げます。

<田淵委員>

会長、副会長をはじめ、委員の皆様にご感謝申し上げます。また、この間、貴重なご意見をいただきましたと受け止めて、今後の施策に当たっていききたい。

特に柱2の「子どもと大人の未来を育てるまち」には、教育委員会等が深く関わっていく部会の中でいただいたご意見について、本当に貴重なものと受け止めて、今後当たっていききたいと考えている。

教育委員会の方でも第7次総合計画を踏まえて、令和6年度から10年間を見通せるいわゆる教育振興計画、教育ビジョンを作っていきたいと考えている。その大元にさせていただくべき市の総合計画ということで、この方向性をしっかりと踏まえて、より教育振興計画を充実したものを策定していききたいと考えている。重ねてこの一年間に感謝申し上げます。

<副会長>

委員の皆様にご感謝申し上げます。中川会長にはこの審議会をまとめていただいた点についても、感謝申し上げます。また、事務局の皆様についても、この一年間はコロナ禍ということで、通常でも審議進行は難しいと考えているが、その中にご苦勞されたと思うので、御礼を申し上げたい。副会長という席にしながら、力不足でご迷惑をお掛けした。

答申にあるように、この10年間は想定外の連続となることが思慮されるように、この先を10年単位で先を見ることは難しい。しかし、来るべき未来に向けて、前もって取り組む必要性を強く感じている。未曾有のコロナ禍において、この審議会が開催されたことが、今後迎えるであろう激動の時代において、大変意味の深いものだったと感じている。

最後になるが、この会議の取組をしっかりと今後の市政に活かして、「だったらいいな」を叶えることができる池田、また、市外、府外の方も住みたいと思える池田市になるよう切に願って、挨拶とさせていただきます。

<会長>

委員の中で、この計画に関わって嬉しいと思っていただいているとの意見があったが、それに便乗して、この計画の持っている意味を再確認して、解散にしたい。

総合計画は一般的には俗称であり、正しくは基本構想と旧地方自治法では呼んでいた。旧地方自治法第2条第4項で、基本構想は議会の議決を得て定めなければならないと義務があった。これが旧民主党政権の時に義務づけを解除して、できるだけ楽にするということで、これを任意計画にした。多くの自治体で楽ができると思われていたが、実際にはほぼ全ての自治体が困ることになった。総合計画が無いと、たがの外れたことになってしまうので、大半の自治体が改めて総合計画という俗称を正式名称にして、最高計画に位置付け始めた。

池田市も同様で、池田市みんなでつくるまちの基本条例でも位置付けている。豊中市など周辺自治体も同様で、任意事務として総合計画を作るということを義務づけたと共に、なおかつ議会の議決を得て定めると決め直した。そういう意味で、これは非常に地方公共

団体の仕事としては、主体性の強いものであり、計画の位置付けは最上位計画であることは変わらない。

自治体には法定受託事務と自治事務があり、自治事務の中でも法定自治事務と法定外自治事務がある。総合計画策定は自治事務であり、法定外自治事務なので、いわゆる自治事務条例で定めるのが本来である。池田市も基本条例で定めているので、齟齬は無い。国が言っている事務が上で、それ以外は下と言われているのは大間違いで、2000年4月1日から都道府縣市町村は対等の関係であることは元より、国とも対等であるとなった。自治事務は国からとやかく言われることは一切ないが、法定計画というのは法定受託事務でいろいろたくさん入り交じっているが、法定受託事務も入れながら、自治事務も入れながら全部一本にまとめて計画として見てみようというものが総合計画である。義務的な仕事もあれば、自治的な仕事も入っていることはご理解いただきたい。計画にも法定計画と任意計画がある。例えば、教育基本計画は法定計画のはずである。しかしながら、計画の位置付けとしては、総合計画が上位計画となる。このように計画を体系づけることが重要である。

計画については職員も従わなければならない。市民においても、計画を理解した上で協力していくという責務がある。皆の計画であるということをご理解いただきたい。このようなものを団体意思と呼ぶ。

ところが、今までの総合計画は拘束力がなかったもので、これをできるだけ拘束力を緩やかであっても持とうということが、今回の総合計画の中にも盛り込まれている。つまり、目標値が入って、達成度を評価するということである。今までにあったような心地よいムードミュージックのような計画ではなく、きちっと進むべき方向を示す楽譜のような計画である。

日本語では計画と呼ぶが、海外ではMAPではなくPLANと呼ばなければ地図が出ない。ヨーロッパではPLANは都市計画であり、その結果の地図である。日本でいう計画は何と呼ぶかという、STRATEGY、つまり戦略である。いわば基本行動指針であるのご理解いただくと幸いです。

以上で、私の司会進行は今日で終わりとさせていただきます。これまでのご協力に感謝したい。重ねて御礼申し上げます。

3. 閉会

瀧澤市長による閉会挨拶が行われた。

<瀧澤市長>

改めて、中川会長より答申書を受け取った。厚く御礼申し上げます。

冒頭にも述べたが、約一年前の第1回から始まり、合計17回の審議会でご議論いただいた。皆様には毎回、非常に多くのご意見をいただき、活発なご議論を交わしていただいていると、委員として参加している岡田副市長、石田副市長、田淵教育長から伺っていた。様々な分野においてご活躍いただいている皆様におかれては、大変お忙しい中、平日の夜や休日にお集まりいただき、皆様お一人お一人が池田市のこれからについて真剣に考えて

くださったということは本当にありがたく、貴重な機会であったと考えている。また、この審議会が皆様にとって、池田市についてより深く知っていただく機会、そして、好きになっていただく機会になれば幸いと考える次第である。

先ほど、これからがスタートという話があったが、そのとおりで、令和5年度から総合計画に沿った市政運営を行っていくことになる。社会課題の多様化や複雑化が著しいが、市民の暮らしを支える基礎自治体として、全庁挙げて計画を推進し、目指すべきまちの将来像の実現に向けて取り組んでいく。

審議会自体は本日で終了になるが、委員の皆様方には引き続き池田市のまちづくりについてご指導を賜りたい。深く感謝申し上げます。

<事務局>

会長、委員の皆様には、長期間にわたり、総合計画の策定に対しご審議いただき厚く御礼申し上げます。本日をもって審議会は解散となる。皆様には、今後とも市政の推進にご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、これをもって、総合審議会を閉会する。

以上